

さんぽみち

2026年3月31日

第104号

■発行者
兵庫県立リハビリテーション中央病院
〒651-2181
神戸市西区曙町1070
TEL (078)927-2727
FAX (078)925-9203
<https://www.hwc.or.jp/hospital>

医療業界初 ANGEL Dojo 2025 に参加 ～理学療法士・看護師・事務職が挑んだDX～

当院では、リハビリテーションの質をさらに高めるため、デジタル技術の活用に積極的に取り組んでいます。この度、2025年7月から10月にかけて開催された、Amazon Web Services (AWS) 主催の育成プロジェクト「ANGEL Dojo 2025」に、医療業界として初めて参加しました。

このプロジェクトは、現場の課題をITで解決する「内製化（自分たちでシステムをつくる取り組み）」を目指した実践型トレーニングです。当院からは理学療法士、看護師、事務職の計4名が参加し、パートナー企業の支援を受けながら未知の領域に挑みました。

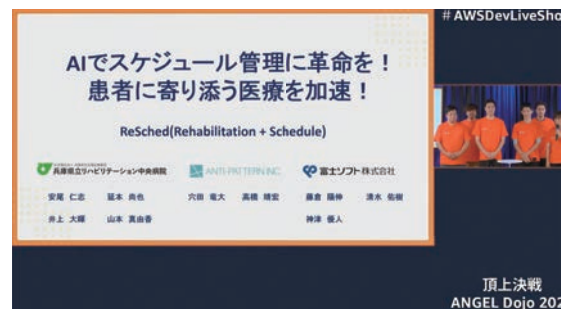


◇リハビリ現場の「負担」をAIで解決! 「ReSched」の誕生

リハビリスタッフの多大な時間を奪っていた「スケジュールリング業務」の自動化です。AIが患者さんの条件やスタッフ情報を瞬時に解析し、最適なスケジュールを生成するシステム「ReSched (リスケッド)」のプロトタイプを開発しました。従来1病棟あたり約100分かかっていた作成時間が、わずか20分まで短縮できる見込みとなりました。

◇「頂上決戦」で見た底力 全9チーム中2位!

約3か月の活動の結果、当院チームはビジネス部門で2位となり、上位4チームが出場する「頂上決戦」へ進出しました。この成果には、AWSのCEOからも高い評価が寄せられるなど、当院のDX（デジタルトランスフォーメーション）への取り組みが外部からも大きく注目されています。



Youtubeで生配信された頂上決戦

<https://www.youtube.com/watch?v=jnrVg3Sw7vg&t=6s>

～参加した職員の声～

「IT知識ゼロからのスタートでしたが、自分たちで現場を便利にできるという自信に繋がりました」「創出された時間を、より丁寧なリハビリの提供や患者さんと向き合う時間に充てていきたいです」

◇今後の展望

今後は「ReSched」の精度をさらに向上させ、実際の現場での活用を目指します。デジタル技術の力を活用し、スタッフがより本来の業務に専念できる環境を整えることで、患者さん一人ひとりに寄り添った、より質の高い医療・リハビリサービスの提供を目指してまいります。



さらなる医療の質向上へ向けて ～病院機能評価 受審～

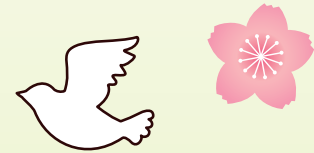
病院機能評価とは、患者さんが安全で安心な医療が受けられるよう、病院組織全体の運営管理および提供される医療について、基本的な活動（機能）が適切に実施されているかどうかを評価する仕組みで、公益財団法人 日本医療機能評価機構が実施しています。

質の高い医療を効率的に提供するためには、医療機関の自らの努力が重要となりますが、その努力を効果的なものとするためには、第三者による評価を活用して、更なる改善に継続的に取り組むことが有用となります。

当院では、平成10年から病院機能評価を継続して受審しています。今回、9月4日（木）に、病院機能評価（高度・専門機能）を受審し、リハビリテーション（回復期）について、審査を受け、認定されました。受審に際し、明らかになった課題に対して、今後も引き続き、病院スタッフ全員で取り組み、医療の質向上を目指します。



参考：公益財団法人 日本医療機能評価機構 病院機能評価事業



退院後の暮らしを支えるために ～地域リハ塾に参加して～

日本リハビリテーション病院・施設協会では、地域リハビリテーションに志を持つ人材の育成と、各地域における実践活動の推進を目的として、2018年より「地域リハ塾」を開催しています。本研修は、全国から集まった参加者が、地域での暮らしを支える視点や実践について学び合う場となっています。

今年度は、当センターより理学療法士2名、事務職員1名の計3名が参加しました。半年間にわたり、全国5か所の施設で実施された研修では、各地の取り組みを学ぶ施設見学に加え、長年地域リハビリテーションに携わってこられた講師による講義、多職種によるグループワークなどが行われました。

研修を通じて改めて実感したのは、疾病や身体機能の回復にとどまらず、その人の「生活」や「その人らしさ」に寄り添う支援の重要性です。特に印象的であったのは、「リハビリテーションは退院後からが本当の始まりである」という言葉であり、入院中の支援だけでなく、退院後の生活を見据え、地域の文化や人とのつながりを踏まえた関わりの大切さを学びました。

また、医療と福祉の枠を超えた多職種連携や、地域住民とともに支え合う視点についても、多くの気づきを得ることができました。

今回の研修で得た学びを今後の実践に活かし、退院後の生活を見据えた支援のさらなる充実に努めてまいります。引き続き、地域の関係機関と連携しながら、利用者の皆さまが住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らし続けられるよう取り組んでまいります。



主催：一般社団法人
日本リハビリテーション病院・施設協会



職員の学びを支える SIG 活動のご紹介

今年度より、病院職員の診療技術の向上及び研究活動の推進による職員の働き甲斐の向上の一環として、Special Interest Group（以下「SIG」と略し、「シグ」と読む）を設置しています。組織の中で、共通の興味ある特定の領域に関する知識や研究成果、技術などを共有するために作られたコミュニティです。SIGのメンバーは協力して特定の分野で交流したり、問題を解決する方法を追求していきます。今回は、各SIGの取り組みについてご紹介します。

① 脊髄損傷研究チーム

私たちは、脊髄障害のある患者さんに対して、より質の高いリハビリテーションを提供することを目指しています。そのために、脊髄損傷リハビリテーションの専門病院として当院が培ってきた経験と知見を、研究や教育活動を通じて、院内外へ積極的に発信しています。

② 上肢切断 SIG

「できる」を広げるために。上肢切断のある方とご家族を支えるため、多職種が連携したSIG活動を行っています。義手のリハビリテーションの研修や体験、小児・家族の交流の場づくりを通じ地域とつながる支援を広げていきます。

③ スポーツリハビリテーション SIG

院内で医師との連携を深めながら、スポーツ外傷・障害の研究発表や地域チーム支援を実施しました。安全で質の高いリハビリ体制づくりを進め、院内外への貢献を広げています。今後も予防から復帰まで一貫して支援します。

④ 下肢切断 SIG

下肢切断 SIG は、多職種が連携し、下肢切断者の機能回復と社会参加を支援するため、専門的知識の共有や実践力の向上、臨床研究への取り組みとその成果を外部発信することを目的に活動しています。

⑤ 在宅支援強化 SIG

入院前から退院後の在宅生活まで一貫した支援の質向上を目指す活動グループです。訪問リハの効果検証や地域医資源調査を基に多職種で環境調整の重要性を共有し、その人らしい生活が再開できるように、多角的な視点でのサポート体制の構築に取り組んでいます。

⑥ 災害対策 SIG

能登半島地震等の支援経験を持つ多職種が活動中です。本年度は院内 BCP の課題抽出や安否確認体制の調査に注力しました。個人の経験を組織の力に変え、有事も迅速に機能する「支え合いの仕組み」を地域の一員として進めていきます。

来年度より「医療 DX 推進チーム」「神経因性排便障害ケア SIG」が新しく承認され、9つの SIG 活動が病院サービスの向上や皆さまのお役にたてるよう努めます。



⑦ 脊髄性機能研究会

脊髄損傷者への性に関する情報提供と職員への教育を目的として平成8年より活動を続けています。脊髄損傷者とご家族（パートナー）を対象に講習会を年2回行っています。（ご案内は院内ポスターで掲示いたします。）

万が一に備えて！

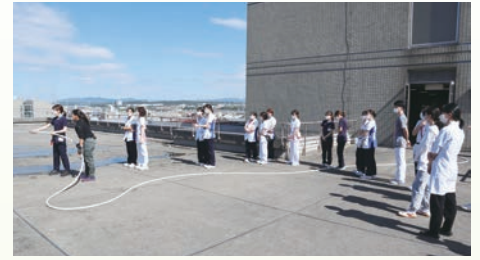
◆消火・避難訓練

令和7年10月10日には、新任職員を対象に、消火栓の取り扱い訓練を実施しました。実際に消火栓を使いながら初期消火の手順や注意点を確認し、万が一の際に落ち着いて行動できるよう、理解を深めました。

令和7年12月3日には、夜間に病棟での火災発生を想定した避難訓練を実施しました。限られた人員の中で、患者さんの安全を最優先にした避難誘導や情報共有の重要性を再確認する機会です。引き続き、安心・安全な医療環境づくりに努めていきます。

◆電子カルテ停止時を想定した対応訓練

近年、医療機関を標的としたサイバー攻撃が報告されており、電子カルテなどの医療情報システムが一時的に利用できなくなる事例も発生しています。当院でもこうした事態に備え、電子カルテ停止時を想定した対応訓練をはじめて実施しました。訓練では手術室との連携を中心に、事態発生時からの一連の対応手順について確認しました。今後も様々なリスクに備え、安心して医療を受けていただける体制づくりに努めてまいります。



～自分でできる！自主トレメニューの紹介～

今年度は自主トレメニュー紹介シリーズを掲載しています。第1回は脳卒中患者のための上肢自主トレ、第2回は脳卒中患者のための下肢自主トレ、第3回となる今回はパーキンソン病患者のための自主トレです。無理のない範囲でぜひ取り組んでみてください。

シリーズⅢ パーキンソン病患者のための自主トレ

パーキンソン病患者さんが困る症状として腰曲がりを挙げられる方が多くおられます。今回はおススメの自主練習を一つ紹介します。

- ①左写真のように手を着いて座る
- ②天井を見上げるように胸を張る
- ③30秒程度姿勢を維持する

※症状は人によって異なるため、
主治医等に確認してから行うようにしましょう。



その他の症状に対する自主練習については、
当院で作成したパンフレットをQRコードからご参照下さい。

